

## 神崎川架橋・尼崎港湾改修関係史料概要

1: 文書群番号	092002
2: 文書群名	神崎川架橋・尼崎港湾改修関係史料
3: 出所	
4: 家業・役職等	-
5: 地名	1. 兵庫県川辺郡小田村神崎／尼崎市神崎／尼崎市神崎町ほか 2. 兵庫県川辺郡尼崎町／尼崎市
6: 行政区分	1. 小田村／尼崎市 2. 尼崎町／尼崎市
7: 歴史	尼崎港の改修・築港事業は、大正元年（1912）に鈴木商店が丸島埋立てを計画したことからはじまった。尼崎町内の意見の調整がつかずこの計画が流産したあと、第1次対戦後に浮上したのが尼崎港の大修築・埋立事業計画であった。尼崎市議会は満場一致で県費による修築・運営を決議し、県議会にもかけられたが、一部市民の間で市営論を唱える反対運動がおこり、結局尼崎築港会社が工事免許をうけ着工を開始したのは、昭和5年（1930）に入ってからであった。神崎橋架橋は、明治30年（1897）に地元住民が川辺郡会に陳情して以来の課題であったが、大阪府の三大架橋計画や日露戦争で挫折を繰り返し、大正10年に再度歌島・小田両村の住民連名の陳情書が提出され、同13年に両府県の負担で敷設が実現した。
8: 伝来	平成4年（1992）6月、山口氏より寄贈。
9: 史料入手先	山口久喜氏（）
10: 点数	5点（目録件数5件）
11: 年代	大正10年（1921）
12: 構造と内容	本文書群は、①尼崎市港湾改修に関する文書と②神崎橋架橋に関する文書で構成されている。①は大正10年（1921）に大規模な尼崎港改修計画の議論が起こったときの史料で、県費による改修の実現を県会議員に働きかけた尼崎市議会の連名書や、工事を県費運営で行うことの正当性を訴えた市長声明を掲載した尼崎市広報号外、市議会の方針に反対し、尼崎港の改修・運営を市税で行うことを県会議員に訴えた市民惣代の文書などがある。②は同時期に請願された神崎橋架橋に関する大阪府・兵庫県への陳情書で、渡し船が通っていた神崎・加島間に両府県の負担で架橋することを働きかけたものである。
13: 関連史料	-
14: 閲覧条件	原本
15: 作成者	坂江 愛